

2026年度（令和8年度） 入学時アンケート報告書

調査概要

1) 調査の目的

本学のディプロマ・ポリシーに基づき、入学時点における学生の能力（学修成果の初期値）、学習意欲、大学への期待、不安・支援ニーズを把握し、教育内容および学生支援体制の改善に活かすことを目的として実施した。
また、卒業時アンケート等とあわせて分析することで、学修成果の到達・発揮状況を多面的に検証する基礎データとする。

2) 調査方法

学生生活ガイダンスにおいて、回答フォームの二次元コードを記載した調査依頼書を配付し、Microsoft Formsを用いたオンライン形式によりアンケートを実施した。

3) 調査時期

2026年4月1日(水)

4) 調査対象者

本学へ2026年度4月に入学した学部学生および大学院生

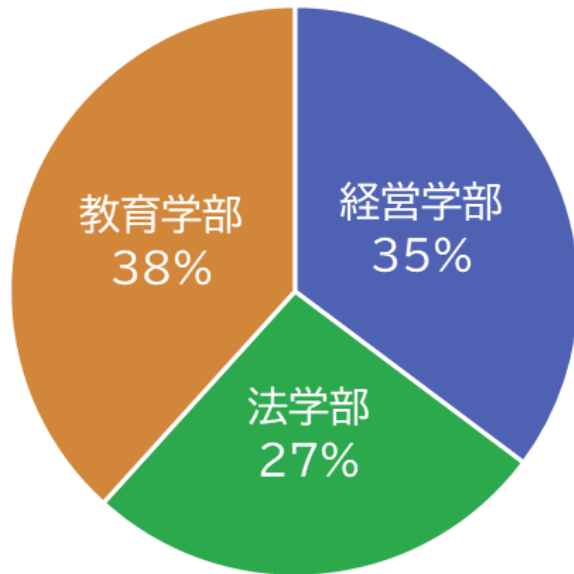
5) 回答数・回答率

学部（専攻）	調査 対象者数(人)	回答件数(人)	回答率
全体	1277	1213	95%
経営学部	453	427	94%
法学部	335	321	96%
教育学部	487	464	95%
（児童教育専攻）	230	222	97%
（スポーツ健康専攻）	141	132	94%
（英語教育専攻）	54	50	93%
（心理学専攻）	62	60	97%
大学院 経営学研究科	1	0	0%
大学院 法学研究科	1	1	100%

6) 回答者属性

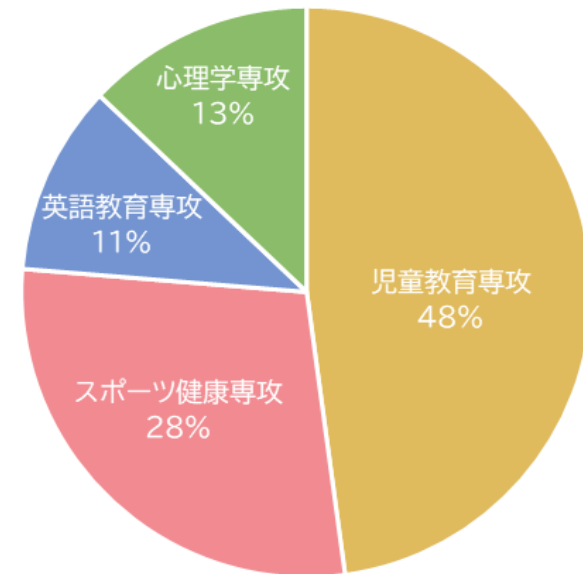
学部構成

n=1,212



教育学部専攻別内訳

n=464



7) 集計データについて

各設問の割合(%)は当該設問の回答者数(n)を母数として算出している。

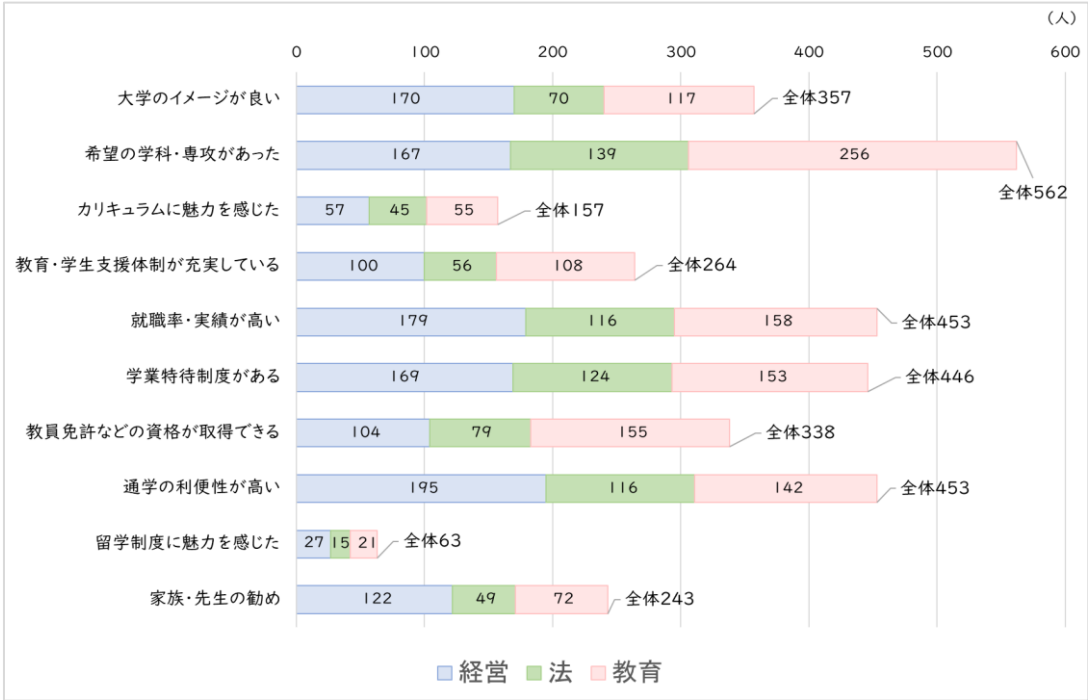
割合は小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある。

本調査では、大学院の対象者数が少ないことから、個人の特定につながる可能性に配慮し、当該結果については公表を控えている。

本学への進学理由

本学への進学理由は、「希望の学科・専攻」が最多であり、「就職率・実績」「通学の利便性」「学業特待制度」が続く。このことは、入学者は学びたい分野との適合を重視しつつ、進路実績や通学条件、経済的支援といった実利的要素も踏まえて進路選択していることを示唆している。一方で、「家族・先生の勧め」や「大学のイメージ」といった外的要因による進学も一定数見られ、入学時点の目的意識や進学動機には一定の幅がある。これらの結果から、本学には学修分野への明確な関心を有する学生を基盤としつつも、多様な理由で学生が入学している構造が確認される。

Q4. 本学への進学理由として、当てはまるものをお選びください。(複数回答可)

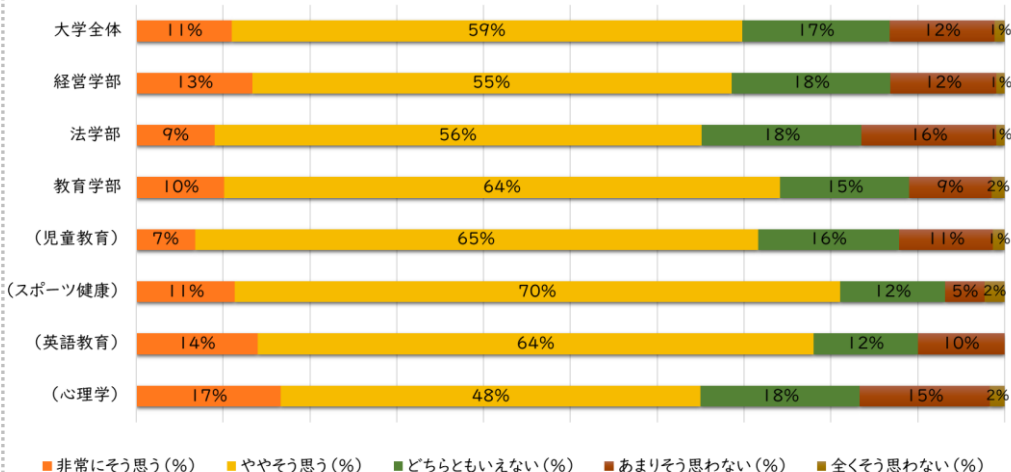


学部	大学のイメージが良い	希望の学科・専攻があった	カリキュラムに魅力を感じた	教育・学生支援体制が充実している	就職率・実績が高い	学業特待制度がある	教員免許などの資格が取得できる	通学の利便性が高い	留学制度に魅力を感じた	家族・先生の勧め
経営学部	170	167	57	100	179	169	104	195	27	122
法学部	70	139	45	56	116	124	79	116	15	49
教育学部	117	256	55	108	158	153	155	142	21	72
(児童教育)	54	130	29	56	88	73	69	75	8	32
(スポーツ健康)	33	64	8	23	33	30	48	28	5	19
(英語教育)	16	18	7	19	16	29	9	23	6	11
(心理学)	18	45	10	13	20	29	19	23	2	11

DP①自律性・教養・柔軟な思考力

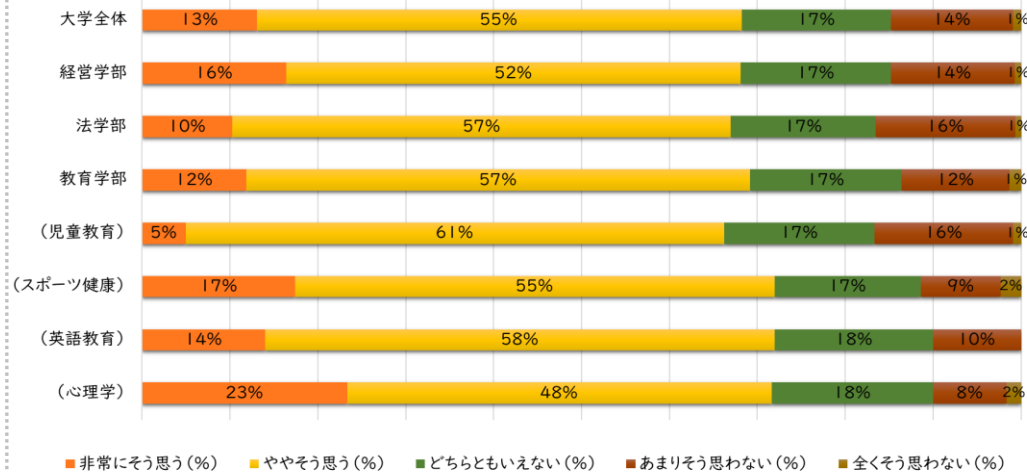
「自分で課題を見つけ主体的に行動できる(Q5)」については肯定的評価が70%、「幅広い知識を身につけ柔軟に考えることができる(Q6)」については68%と、いずれも入学時点において一定の水準を示している。しかしながら、「どちらともいえない」および否定的回答も約3割前後存在していることから、意識のばらつきに対する段階的・体系的な育成が全学共通の課題である。

Q5.自分で課題を見つけ、解決に向けて主体的に行動できていると思いますか。



学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	11%	133	59%	712	17%	206	12%	146	1%	14	100%	1211
経営学部	13%	57	55%	235	18%	78	12%	52	1%	4	100%	426
法学部	9%	29	56%	180	18%	59	16%	50	1%	3	100%	321
教育学部	10%	47	64%	297	15%	69	9%	44	2%	7	100%	464
(児童教育)	7%	15	65%	144	16%	36	11%	24	1%	3	100%	222
(スポーツ健康)	11%	15	70%	92	12%	16	5%	6	2%	3	100%	132
(英語教育)	14%	7	64%	32	12%	6	10%	5	0%	0	100%	50
(心理学)	17%	10	48%	29	18%	11	15%	9	2%	1	100%	60

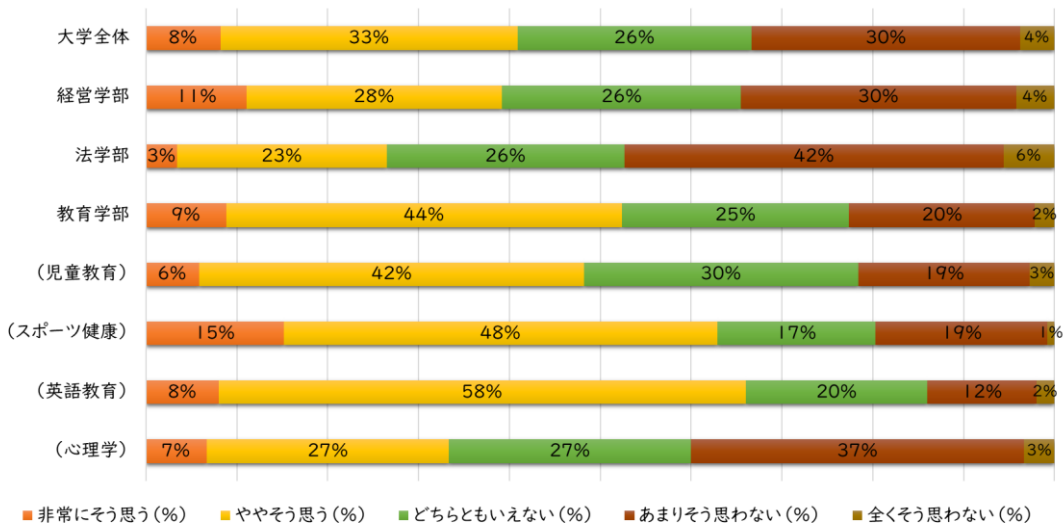
Q6.幅広い知識を身につけ、柔軟に考えることができていると思いますか。



学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	13%	158	55%	668	17%	206	14%	168	1%	11	100%	1211
経営学部	16%	70	52%	220	17%	73	14%	60	1%	3	100%	426
法学部	10%	33	57%	182	17%	53	16%	51	1%	2	100%	321
教育学部	12%	55	57%	266	17%	80	12%	57	1%	6	100%	464
(児童教育)	5%	11	61%	136	17%	38	16%	35	1%	2	100%	222
(スポーツ健康)	17%	23	55%	72	17%	22	9%	12	2%	3	100%	132
(英語教育)	14%	7	58%	29	18%	9	10%	5	0%	0	100%	50
(心理学)	23%	14	48%	29	18%	11	8%	5	2%	1	100%	60

「基礎的な知識や技能をある程度身につけている（Q6）」については、肯定的評価は約4割にとどまり、「どちらともいえない」および否定的回答が約6割を占めている。全体として入学時点での専門性は未形成な段階にあり、大学教育を通じて新たに習得・強化される性質の能力であることが確認される。

Q7.これから学ぶ専門分野について、基礎的な知識や技能をある程度身につけていると思いますか。

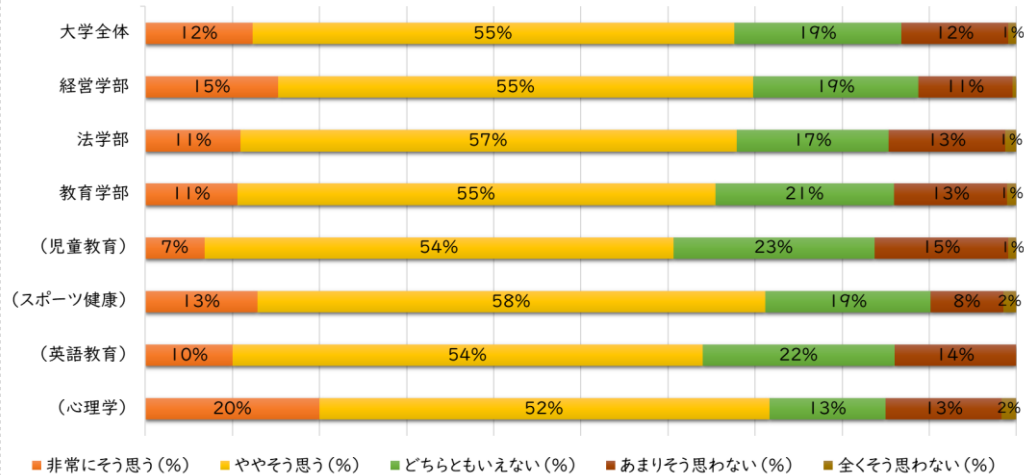


学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	8%	99	33%	396	26%	312	30%	358	4%	46	100%	1211
経営学部	11%	47	28%	120	26%	112	30%	129	4%	18	100%	426
法学部	3%	11	23%	74	26%	84	42%	134	6%	18	100%	321
教育学部	9%	41	44%	202	25%	116	20%	95	2%	10	100%	464
(児童教育)	6%	13	42%	94	30%	67	19%	42	3%	6	100%	222
(スポーツ健康)	15%	20	48%	63	17%	23	19%	25	1%	1	100%	132
(英語教育)	8%	4	58%	29	20%	10	12%	6	2%	1	100%	50
(心理学)	7%	4	27%	16	27%	16	37%	22	3%	2	100%	60

DP②情報活用力・発信力

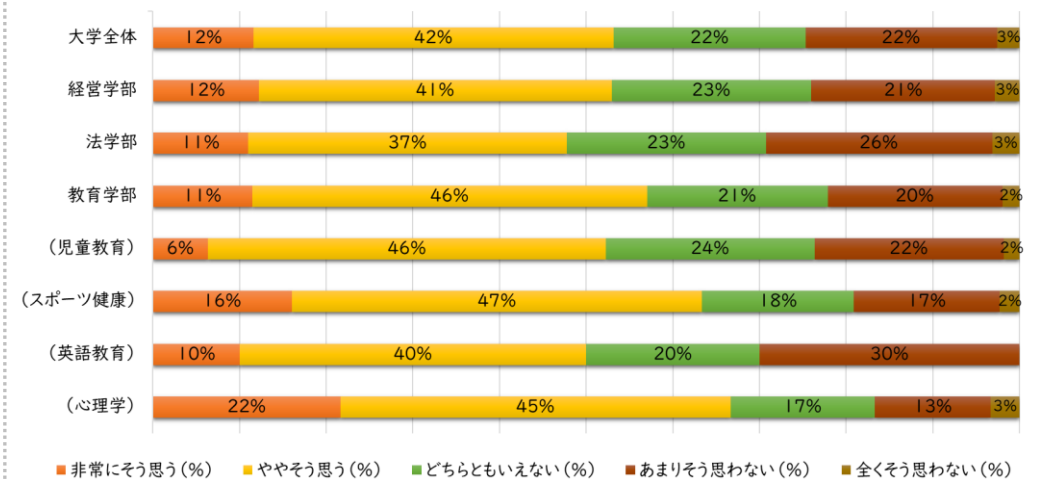
「必要な情報を収集・整理し活用できる」については肯定的評価が67%と一定の水準を示している。一方、「自分の考えをわかりやすく表現・発信できる」については54%にとどまり、同一領域内で差が見られる。全体として情報活用に比べ発信力が弱い傾向にあり、これらを一体的に育成する教育をしていく必要がある。

Q8. 必要な情報を自ら収集・整理し、課題解決に活用できていると思いますか。



学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	12%	149	55%	670	19%	232	12%	149	1%	11	100%	1211
経営学部	15%	65	55%	233	19%	81	11%	46	0%	2	100%	427
法学部	11%	35	57%	183	17%	56	13%	43	1%	4	100%	321
教育学部	11%	49	55%	254	21%	95	13%	60	1%	5	100%	463
(児童教育)	7%	15	54%	119	23%	51	15%	34	1%	2	100%	221
(スポーツ健康)	13%	17	58%	77	19%	25	8%	11	2%	2	100%	132
(英語教育)	10%	5	54%	27	22%	11	14%	7	0%	0	100%	50
(心理学)	20%	12	52%	31	13%	8	13%	8	2%	1	100%	60

Q9. 自分の考えをわかりやすく表現・発信できていると思いますか。

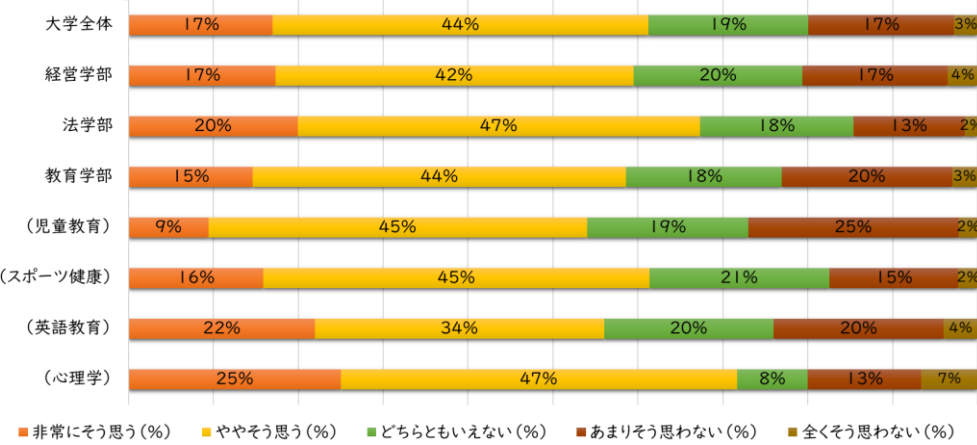


学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	12%	140	42%	500	22%	267	22%	266	3%	31	100%	1204
経営学部	12%	52	41%	173	23%	98	21%	90	3%	12	100%	425
法学部	11%	35	37%	117	23%	73	26%	83	3%	10	100%	318
教育学部	11%	53	46%	210	21%	96	20%	93	2%	9	100%	461
(児童教育)	6%	14	46%	101	24%	53	22%	48	2%	4	100%	220
(スポーツ健康)	16%	21	47%	62	18%	23	17%	22	2%	3	100%	131
(英語教育)	10%	5	40%	20	20%	10	30%	15	0%	0	100%	50
(心理学)	22%	13	45%	27	17%	10	13%	8	3%	2	100%	60

DP③社会・地域への貢献力

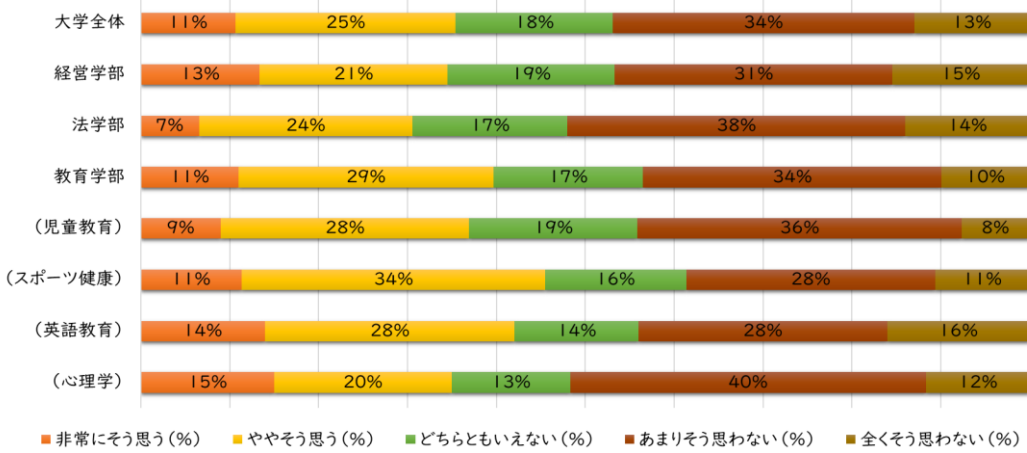
「社会や地域の課題に関心を持っている(Q10)」においては、肯定的評価が約61%と一定の水準を示しており、社会・地域に対する関心は一定程度形成されていることが確認される。一方、「地域活動やボランティアなどに主体的に参加できている(Q11)」においては、肯定的評価が36%にとどまっており、関心に比して行動の水準は低い。全体として意識レベルに比べ実践経験が不足しており、知識や関心を行動へと転換する実践機会の提供が必要である。

Q10.社会や地域の課題に関心を持っていますか。



学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	17%	206	44%	536	19%	228	17%	208	3%	34	100%	1212
経営学部	17%	74	42%	180	20%	85	17%	73	4%	15	100%	427
法学部	20%	64	47%	152	18%	58	13%	42	2%	5	100%	321
教育学部	15%	68	44%	204	18%	85	20%	93	3%	14	100%	464
(児童教育)	9%	21	45%	99	19%	42	25%	55	2%	5	100%	222
(スポーツ健康)	16%	21	45%	60	21%	28	15%	20	2%	3	100%	132
(英語教育)	22%	11	34%	17	20%	10	20%	10	4%	2	100%	50
(心理学)	25%	15	47%	28	8%	5	13%	8	7%	4	100%	60

Q11..地域活動やボランティアなどに、主体的に参加できていると思いますか。

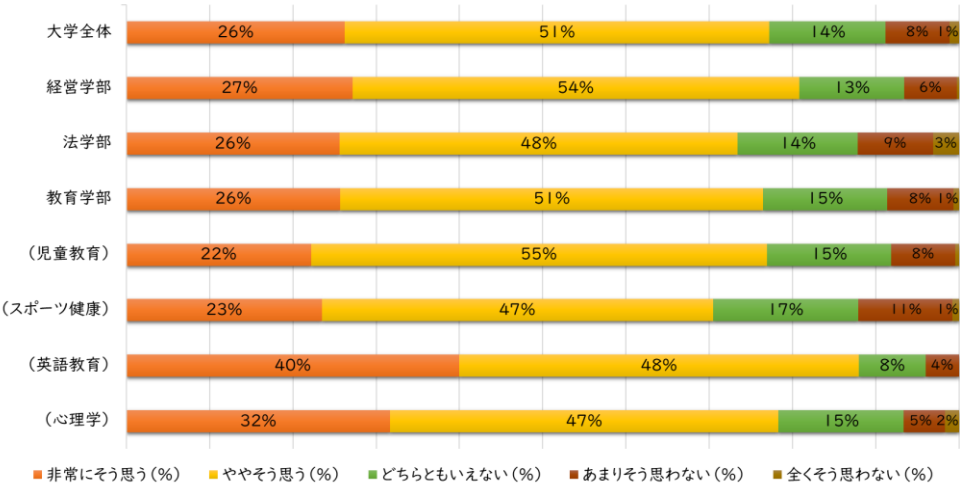


学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	11%	129	25%	300	18%	214	34%	411	13%	157	100%	1211
経営学部	13%	57	21%	90	19%	80	31%	133	15%	66	100%	426
法学部	7%	21	24%	77	17%	56	38%	122	14%	45	100%	321
教育学部	11%	51	29%	133	17%	78	34%	156	10%	46	100%	464
(児童教育)	9%	20	28%	62	19%	42	36%	81	8%	17	100%	222
(スポーツ健康)	11%	15	34%	45	16%	21	28%	37	11%	14	100%	132
(英語教育)	14%	7	28%	14	14%	7	28%	14	16%	8	100%	50
(心理学)	15%	9	20%	12	13%	8	40%	24	12%	7	100%	60

DP④国際的視野と将来を展望する力

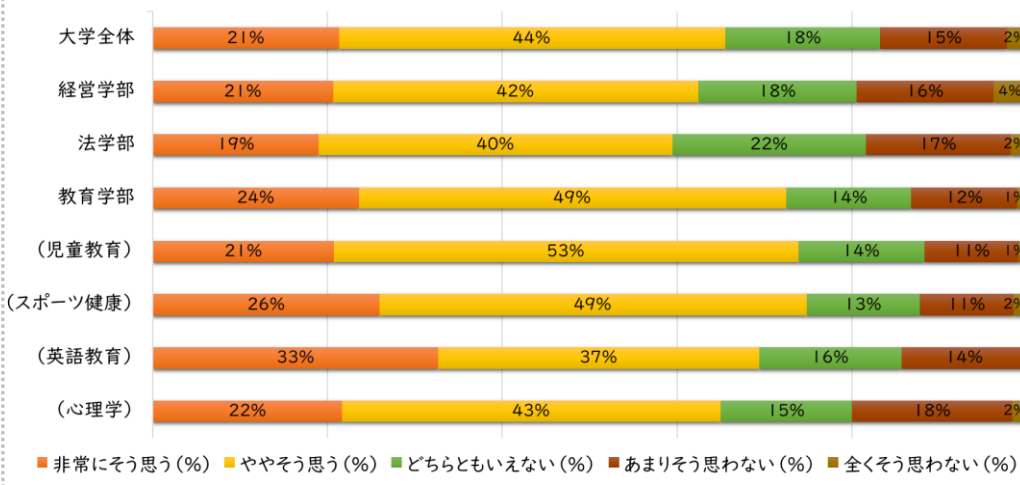
「異文化や多様な価値観の理解」については肯定的評価が77%と比較的高い水準を示している。一方、「将来を長期的・広い視野で考えることができる」については65%にとどまり、さらに、将来展望に関しては「どちらともいえない」および否定的回答が約3割強を占めている。このことから、異文化や多様な価値観の理解は一定程度身についているものの、将来展望の具体化やキャリア設計については、学生間でその認識にばらつきがあるといえる。

Q12.異文化や多様な価値観を理解する姿勢が身についていると思いますか。



学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	26%	317	51%	617	14%	169	8%	93	1%	14	100%	1210
経営学部	27%	116	54%	229	13%	54	6%	27	0%	1	100%	427
法学部	26%	82	48%	153	14%	46	9%	29	3%	10	100%	320
教育学部	26%	119	51%	235	15%	69	8%	37	1%	3	100%	463
(児童教育)	22%	49	55%	121	15%	33	8%	17	0%	1	100%	221
(スポーツ健康)	23%	31	47%	62	17%	23	11%	15	1%	1	100%	132
(英語教育)	40%	20	48%	24	8%	4	4%	2	0%	0	100%	50
(心理学)	32%	19	47%	28	15%	9	5%	3	2%	1	100%	60

Q13.自分の将来を長期的・広い視野で考えることができていると思いますか。



学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	21%	258	44%	534	18%	214	15%	176	2%	27	100%	1209
経営学部	21%	88	42%	178	18%	77	16%	67	4%	16	100%	426
法学部	19%	61	40%	130	22%	71	17%	53	2%	6	100%	321
教育学部	24%	109	49%	226	14%	66	12%	56	1%	5	100%	462
(児童教育)	21%	46	53%	118	14%	32	11%	24	1%	2	100%	222
(スポーツ健康)	26%	34	49%	64	13%	17	11%	14	2%	2	100%	131
(英語教育)	33%	16	37%	18	16%	8	14%	7	0%	0	100%	49
(心理学)	22%	13	43%	26	15%	9	18%	11	2%	1	100%	60

全学の顕著な共通点として、学生の「意識・認識レベル」と「具体的な行動・実践レベル」との間に明確な乖離が存在していることが挙げられる。自律性や柔軟な思考力、情報の収集・整理能力、社会課題への関心、異文化や多様な価値観への理解といった基礎的な資質や意識については、いずれの学部においても高い肯定的回答が見られ、入学時点で良好な自己認識が形成されている。

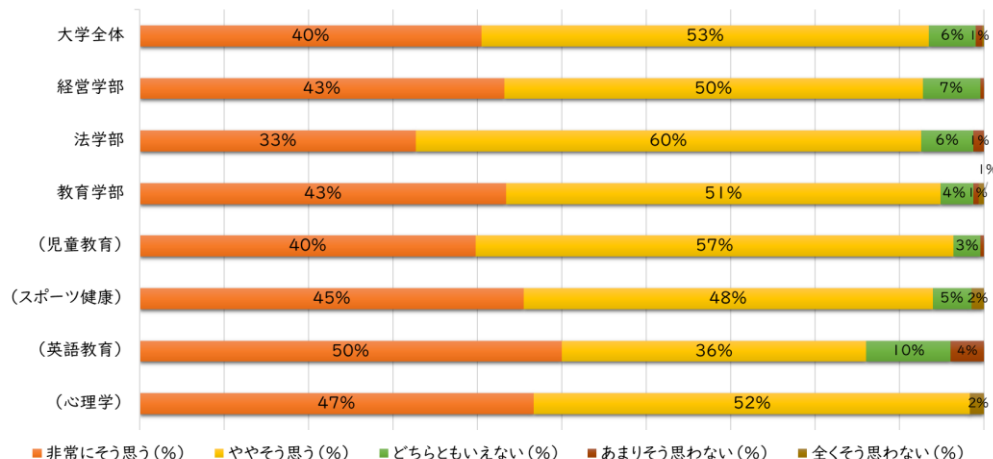
しかし、その一方で、それらを具体的な行動や専門的な能力として表出・発揮する段階には至っていない。専門知識・技能に対する肯定的回答は4割弱と全学的に低調であり、入学時点では専門性が未形成である出発点が明確に示されている。また、情報活用力に比べて自分の考えを表現する「発信力」が弱い点や、社会への関心の高さがボランティア等の「地域活動の実践経験」に結びついていない点、多様性理解に比べて「長期的・具体的な将来展望」の形成が遅れている点など、行動や表出を伴う能力において共通して課題が見られる。また、各項目の回答傾向には能力のばらつきや個人差も確認できた。

これらの結果から、入学時点においては、各能力に関して一定の基礎的水準を有する一方で、領域内における差や学生間のばらつきが存在している状況が明らかとなった。

教育・学修環境への期待

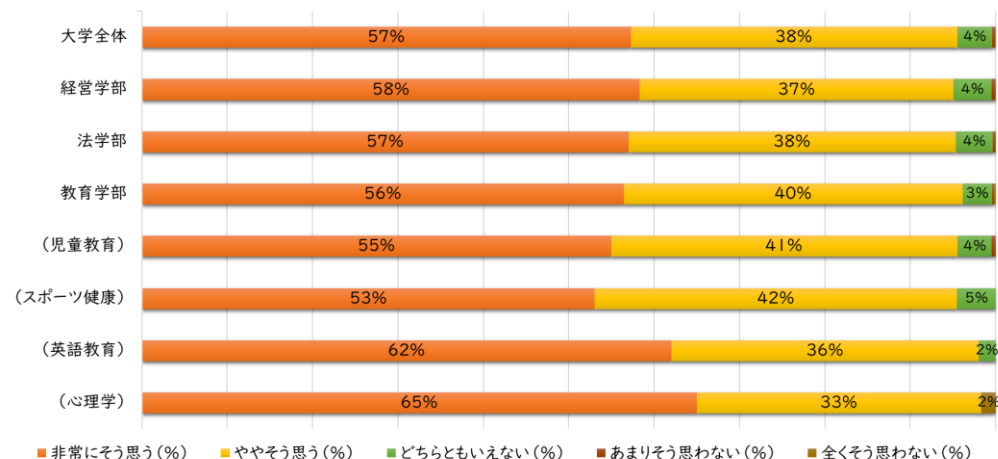
授業を通じて主体的に学びを深めようとする姿勢については肯定的評価が93%、授業外の活動を通じて成長につながる学びが得られるとの認識は95%と、いずれも極めて高い水準を示している。全体として新入生の学びに対する初期の意欲や期待は極めて高く、この高いモチベーションを実際の学修機会として具体化し、学年が上がってもいかに維持させていくかが重要である。

Q14. 授業を通して、自ら学びを深めようとする姿勢で取り組むことができていると思いますか。



学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	40%	490	53%	641	6%	67	1%	9	0%	3	100%	1210
経営学部	43%	184	50%	211	7%	29	0%	2	0%	0	100%	426
法学部	33%	105	60%	192	6%	20	1%	4	0%	0	100%	321
教育学部	43%	201	51%	238	4%	18	1%	3	1%	3	100%	463
(児童教育)	40%	88	57%	125	3%	7	0%	1	0%	0	100%	221
(スポーツ健康)	45%	60	48%	64	5%	6	0%	0	2%	2	100%	132
(英語教育)	50%	25	36%	18	10%	5	4%	2	0%	0	100%	50
(心理学)	47%	28	52%	31	0%	0	0%	0	2%	1	100%	60

Q15. 授業やゼミ以外の活動(資格取得、インターンシップ、課外活動など)を通して、自分の成長につながる学びや経験が得られると思いますか。

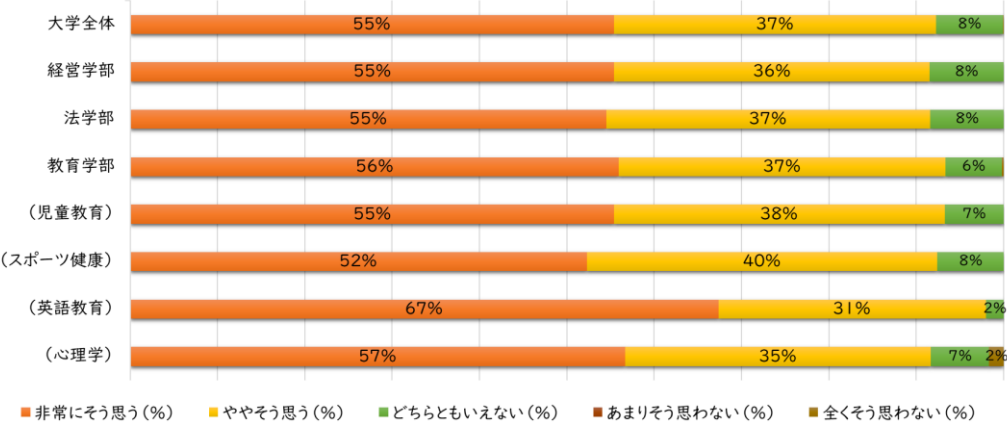


学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	57%	694	38%	464	4%	49	0%	4	0%	1	100%	1212
経営学部	58%	249	37%	157	4%	19	0%	2	0%	0	100%	427
法学部	57%	183	38%	123	4%	14	0%	1	0%	0	100%	321
教育学部	56%	262	40%	184	3%	16	0%	1	0%	1	100%	464
(児童教育)	55%	122	41%	90	4%	9	0%	1	0%	0	100%	222
(スポーツ健康)	53%	70	42%	56	5%	6	0%	0	0%	0	100%	132
(英語教育)	62%	31	36%	18	2%	1	0%	0	0%	0	100%	50
(心理学)	65%	39	33%	20	0%	0	0%	0	2%	1	100%	60

教育・学修環境への期待

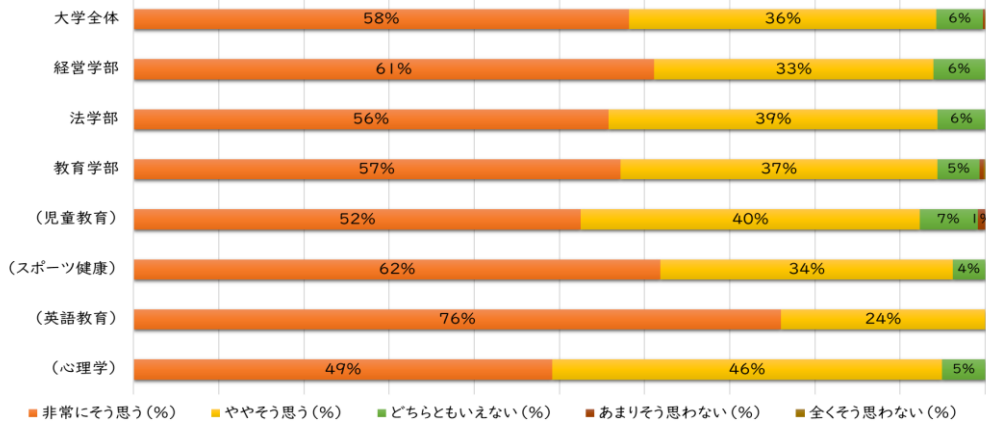
教職員による学修・進路支援については肯定的評価が92%、施設・設備については94%と、いずれも高い水準を示しており、全体として本学の提供する教育環境への信頼は厚く、今後もその高い期待にしっかりと応えられるよう、継続的な質保証が必要である。

Q16.教員や職員から、学修(学び)や進路に関する助言・サポートを受けられる環境が整っていると思いますか。



学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	55%	670	37%	446	8%	93	0%	0	0%	1	100%	1210
経営学部	55%	236	36%	154	8%	36	0%	0	0%	0	100%	426
法学部	55%	175	37%	119	8%	27	0%	0	0%	0	100%	321
教育学部	56%	259	37%	173	6%	30	0%	0	0%	1	100%	463
(児童教育)	55%	123	38%	84	7%	15	0%	0	0%	0	100%	222
(スポーツ健康)	52%	69	40%	53	8%	10	0%	0	0%	0	100%	132
(英語教育)	67%	33	31%	15	2%	1	0%	0	0%	0	100%	49
(心理学)	57%	34	35%	21	7%	4	0%	0	2%	1	100%	60

Q17.本学の施設・設備(教室、図書館、ICT環境など)は学びに活かせると思いますか。



学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	58%	704	36%	436	6%	67	0%	2	0%	1	100%	1210
経営学部	61%	261	33%	140	6%	26	0%	0	0%	0	100%	427
法学部	56%	179	39%	124	6%	18	0%	0	0%	0	100%	321
教育学部	57%	264	37%	172	5%	23	0%	2	0%	1	100%	462
(児童教育)	52%	116	40%	88	7%	15	1%	2	0%	0	100%	221
(スポーツ健康)	62%	81	34%	45	4%	5	0%	0	0%	0	100%	131
(英語教育)	76%	38	24%	12	0%	0	0%	0	0%	0	100%	50
(心理学)	49%	29	46%	27	5%	3	0%	0	0%	0	100%	59

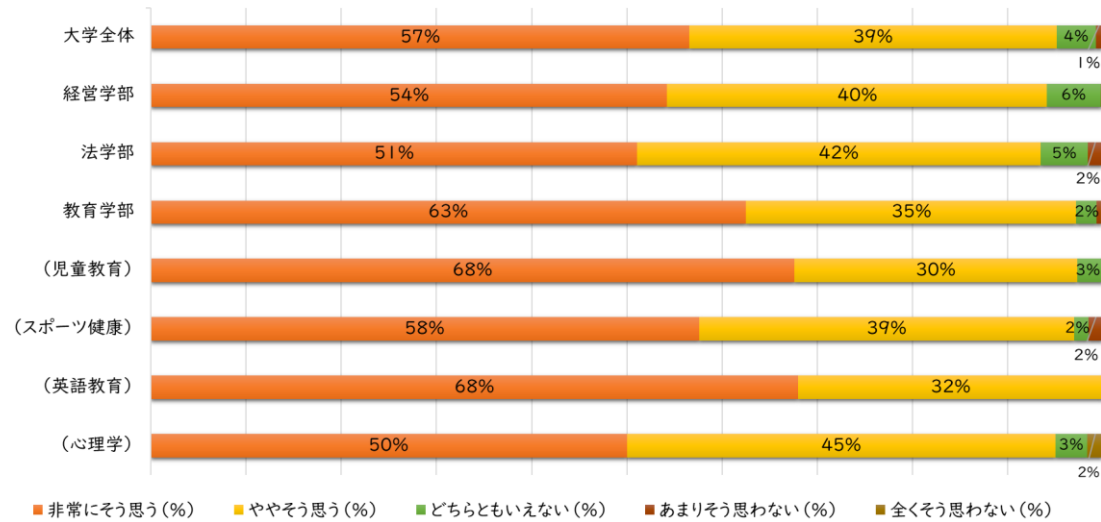
全学に共通する最大の特徴は、本学が提供する正課教育、正課外活動、サポート体制、および施設・設備といった教育環境全体に対して、すべての学部・専攻で約9割前後という極めて高い肯定的回答が示されている点である。新入生たちの大学における学びや自己成長に対する期待の大きさは圧倒的であり、本学への強い信頼感が明確に形成されている。

具体的には、授業を通じた主体的・自発的な学びへの意欲だけでなく、資格取得やインターンシップ、課外活動といったゼミ以外の場における自己研鑽への期待が非常に高い。これは、学生が大学を単なる知識修得の場としてではなく、多様な経験を通じて人間的成長やキャリア形成を実現するための包括的な環境として捉えていることを意味している。また、教職員による学修・進路への助言体制や、図書館・ICT環境などの施設面についても高い期待が寄せられており、オープンキャンパス等を通じた事前の魅力発信や、これまでの本学の支援実績が出身高校・地域において高く評価されている現れであると受け止められている。

これらの結果から、入学時点における極めて高い学習意欲や成長への期待が、本学への強い信頼感として明確に形成されていることが確認できる。

本学での学びが将来の進路や社会で活かせるとの認識については、肯定的評価が96%と極めて高い水準を示している。特に「非常にそう思う」が過半数を占めており、学びに対する有用性の認識は高い水準にあるといえる。この傾向は、学部、専攻を問わず一貫しており、総じて、入学時点での目的意識は良好であることが確認できる。

Q19. 将来、本学で学ぶことが自分の進路や社会で活かせると思いますか。

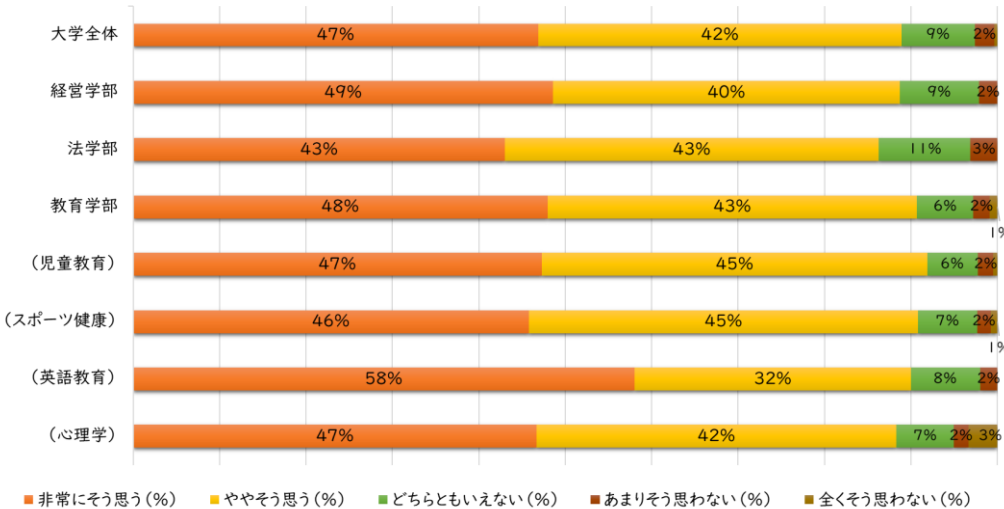


学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	57%	684	39%	466	4%	50	1%	8	0%	1	100%	1209
経営学部	54%	231	40%	170	6%	24	0%	1	0%	0	100%	426
法学部	51%	163	42%	135	5%	16	2%	5	0%	0	100%	319
教育学部	63%	290	35%	161	2%	10	0%	2	0%	1	100%	464
(児童教育)	68%	150	30%	66	3%	6	0%	0	0%	0	100%	222
(スポーツ健康)	58%	76	39%	52	2%	2	2%	2	0%	0	100%	132
(英語教育)	68%	34	32%	16	0%	0	0%	0	0%	0	100%	50
(心理学)	50%	30	45%	27	3%	2	0%	0	2%	1	100%	60

入学時点での期待度

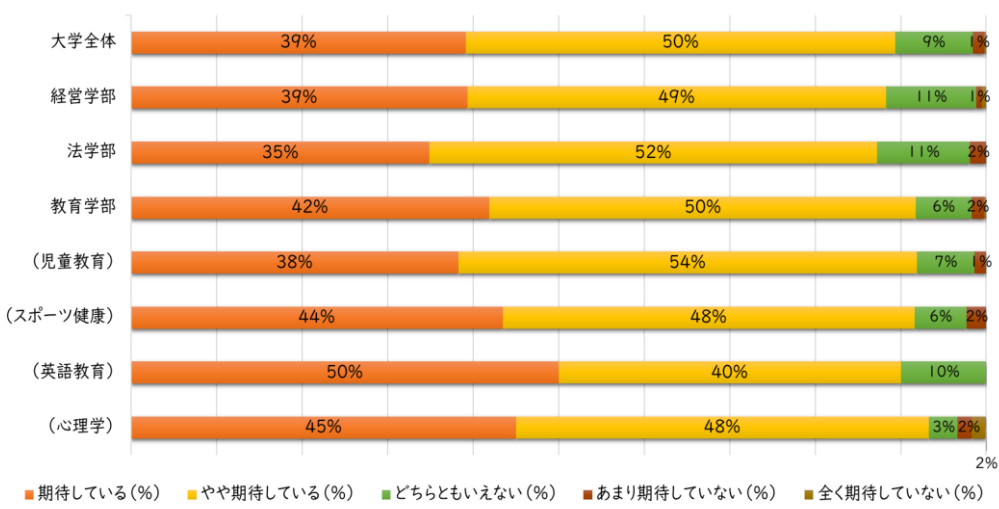
入学時点における期待については、大学生活全体および学業・授業内容のいずれも89%が肯定的に回答しており、高い水準を示している。この傾向は、すべての学部、専攻で一貫しており、本学での学びに対する前向きな意識が入学時点から形成されていることが確認できる。

Q18.これから始まる大学生活全体に対して、どの程度期待をしていますか。



学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	47%	567	42%	509	9%	103	2%	27	0%	4	100%	1210
経営学部	49%	207	40%	171	9%	39	2%	9	0%	0	100%	426
法学部	43%	138	43%	139	11%	34	3%	10	0%	0	100%	321
教育学部	48%	222	43%	198	6%	30	2%	9	1%	4	100%	463
(児童教育)	47%	105	45%	99	6%	13	2%	4	0%	1	100%	222
(スポーツ健康)	46%	60	45%	59	7%	9	2%	2	1%	1	100%	131
(英語教育)	58%	29	32%	16	8%	4	2%	1	0%	0	100%	50
(心理学)	47%	28	42%	25	7%	4	2%	1	3%	2	100%	60

Q20.入学時点での期待度を教えてください。(学業・授業内容)

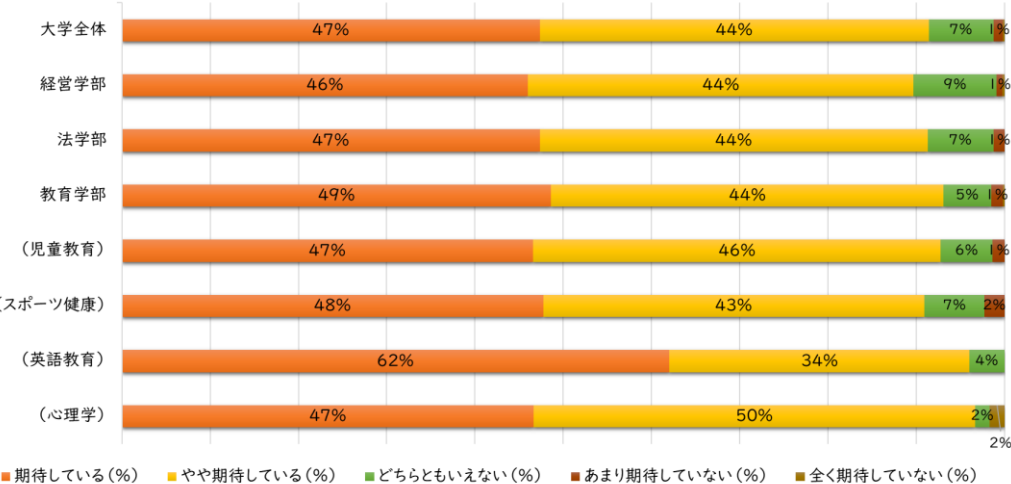


学部	期待している(%)	期待している(人)	やや期待している(%)	やや期待している(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまり期待していない(%)	あまり期待していない(人)	全く期待していない(%)	全く期待していない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	39%	474	50%	608	9%	110	1%	16	0%	3	100%	1211
経営学部	39%	168	49%	209	11%	45	1%	3	0%	2	100%	427
法学部	35%	112	52%	168	11%	35	2%	6	0%	0	100%	321
教育学部	42%	194	50%	231	6%	30	2%	7	0%	1	100%	463
(児童教育)	38%	85	54%	119	7%	15	1%	3	0%	0	100%	222
(スポーツ健康)	44%	57	48%	63	6%	8	2%	3	0%	0	100%	131
(英語教育)	50%	25	40%	20	10%	5	0%	0	0%	0	100%	50
(心理学)	45%	27	48%	29	3%	2	2%	1	2%	1	100%	60

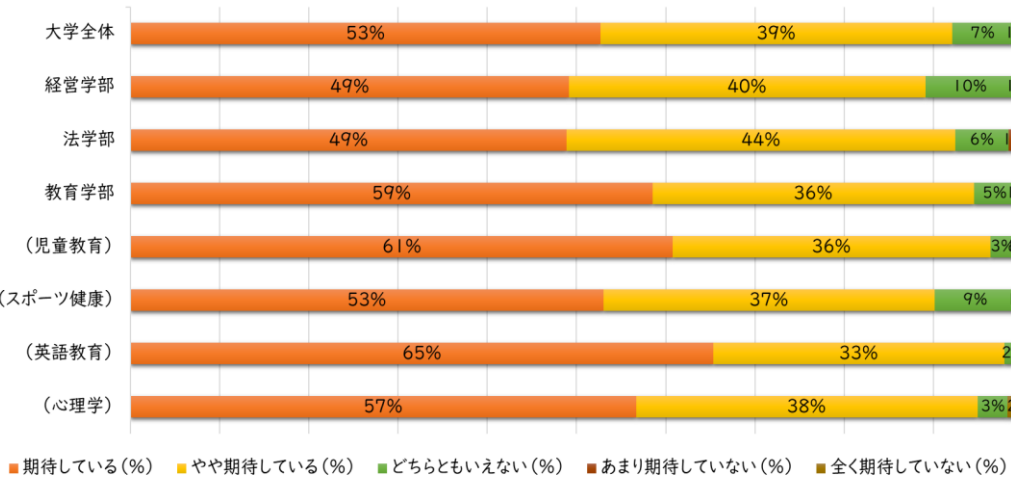
入学時点での期待度

学生支援・制度に関して91%、進路・就職支援に関して92%が肯定的に回答しており、いずれも高い水準を示している。学生支援・制度面では、履修や学修支援、相談体制など大学生活の基盤に関わる支援への期待が確認され、進路・就職支援については、将来のキャリア形成に直結する支援への関心が高いことが分かる。この結果から、入学段階から将来を見据えた支援への強い期待が読み取れる。

Q20.入学時点での期待度を教えてください。(学生支援・制度：履修・学特制度・相談)



Q20.入学時点での期待度を教えてください。(進路・就職支援)



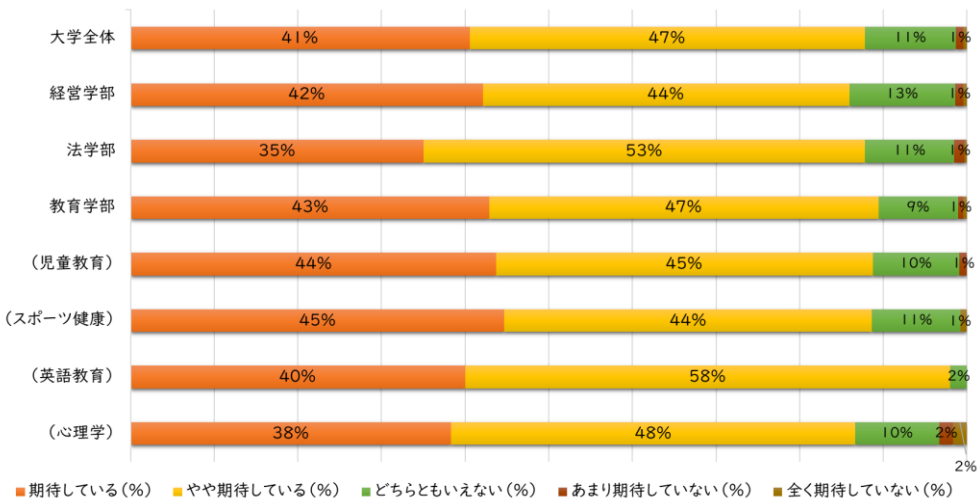
学部	期待している (%)	期待している (人)	やや期待している (%)	やや期待している (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまり期待していない (%)	あまり期待していない (人)	全く期待していない (%)	全く期待していない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	47%	573	44%	533	7%	89	1%	13	0%	2	100%	1210
経営学部	46%	196	44%	186	9%	40	1%	3	0%	1	100%	426
法学部	47%	152	44%	141	7%	24	1%	4	0%	0	100%	321
教育学部	49%	225	44%	206	5%	25	1%	6	0%	1	100%	463
(児童教育)	47%	103	46%	102	6%	13	1%	3	0%	0	100%	221
(スポーツ健康)	48%	63	43%	57	7%	9	2%	3	0%	0	100%	132
(英語教育)	62%	31	34%	17	4%	2	0%	0	0%	0	100%	50
(心理学)	47%	28	50%	30	2%	1	0%	0	2%	1	100%	60

学部	期待している (%)	期待している (人)	やや期待している (%)	やや期待している (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまり期待していない (%)	あまり期待していない (人)	全く期待していない (%)	全く期待していない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	53%	635	39%	475	7%	82	1%	10	0%	3	100%	1205
経営学部	49%	208	40%	169	10%	42	1%	3	0%	1	100%	423
法学部	49%	156	44%	139	6%	19	1%	4	0%	1	100%	319
教育学部	59%	271	36%	167	5%	21	1%	3	0%	1	100%	463
(児童教育)	61%	135	36%	79	3%	6	1%	2	0%	0	100%	222
(スポーツ健康)	53%	70	37%	49	9%	12	1%	1	0%	0	100%	132
(英語教育)	65%	32	33%	16	2%	1	0%	0	0%	0	100%	49
(心理学)	57%	34	38%	23	3%	2	0%	0	2%	1	100%	60

入学時点での期待度

入学時点における学生生活（ゼミ・課外活動等）への期待については、大学全体で約88%が肯定的に回答しており、高い水準を示している。この傾向は、学部・専攻を問わず一貫しており、学生の期待に応えることのできる様々な人的・物的な支援体制が整っていることを、必要に応じて周知していくことが求められる。

Q20.入学時点での期待度を教えてください。（学生生活：ゼミ・課外活動など）



学部	期待している (%)	期待している (人)	やや期待している (%)	やや期待している (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまり期待していない (%)	あまり期待していない (人)	全く期待していない (%)	全く期待していない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	41%	491	47%	572	11%	132	1%	11	0%	5	100%	1211
経営学部	42%	180	44%	187	13%	54	1%	4	0%	2	100%	427
法学部	35%	112	53%	169	11%	34	1%	4	0%	1	100%	320
教育学部	43%	199	47%	216	9%	44	1%	3	0%	2	100%	464
(児童教育)	44%	97	45%	100	10%	23	1%	2	0%	0	100%	222
(スポーツ健康)	45%	59	44%	58	11%	14	0%	0	1%	1	100%	132
(英語教育)	40%	20	58%	29	2%	1	0%	0	0%	0	100%	50
(心理学)	38%	23	48%	29	10%	6	2%	1	2%	1	100%	60

入学時点での期待度まとめ

入学時点の期待度については、学部・専攻を問わず、新入生の期待度やモチベーションが高いレベルにある。この傾向は、本学の各種支援体制や人的・物的な資源が整っていることへの信頼の現れとして肯定的に捉えられているものと読み取れる。

特に進路・就職支援に対する期待は他項目と比較してやや高い傾向が見られ、将来を見据えた支援への関心の高さがうかがえる。

一方で、学生生活に関する期待は「やや期待している」の割合が相対的に高く、強い期待というよりは、一定の期待感を持った状態で入学している状況が確認される。

これらの傾向は、学部・専攻間で大きな差が見られず一貫していることから、本学に入学する学生は、学修・支援・学生生活を含めた大学生活全体に対して、総じて前向きな期待を持っているといえる。

大学生活で楽しみにしていること・不安

大学生活で楽しみにしている内容としては、「課外活動」（13％）が最も高く、「人間関係・友人関係」（8％）、「学修・授業理解」（7％）が続いており、活動機会や対人関係への期待が中心である。一方、不安に関する内容としては、「人間関係・友人関係」（17％）、「学修・授業理解」（15％）、「履修・制度理解」（14％）が上位を占めており、学修面および対人関係への不安が中心となっている。これらの結果から、同一の内容について、楽しみと不安が「表裏一体」の関係にあることが読み取れる。

Q23.大学生活で楽しみにしていることや不安に感じていることを教えてください。

学部別カテゴリ評価クロス表

	※基準 ◎◎:30%以上／◎:20~29%／○:10~19%／△:10%未満								
	人間関係・友人関係	学修・授業理解	履修・単位・制度理解	課外活動	将来・キャリア・資格	生活・環境適応	両立・自己管理	メンタル・不安感	その他
経営学部	△	△	△	◎	△	△	△	△	△
法学部	△	△	△	○	△	△	△	△	△
教育学部	○	△	△	○	△	△	△	△	△
児童教育専攻	○	△	△	◎	△	△	△	△	△
スポーツ健康専攻	○	○	△	○	△	△	△	△	○
英語教育専攻	○	○	△	○	△	△	△	△	△
心理学専攻	△	△	△	△	△	△	△	△	△

	※基準 ◎◎:30%以上／◎:20~29%／○:10~19%／△:10%未満								
	人間関係・友人関係	学修・授業理解	履修・単位・制度理解	課外活動	将来・キャリア・資格	生活・環境適応	両立・自己管理	メンタル・不安感	その他
経営学部	○	○	○	△	△	△	△	△	△
法学部	○	○	○	△	△	△	△	△	△
教育学部	○	○	○	△	△	△	△	△	△
児童教育専攻	◎	○	○	△	△	△	△	△	△
スポーツ健康専攻	○	○	○	△	△	△	△	△	△
英語教育専攻	○	○	◎	△	△	△	△	△	△
心理学専攻	○	◎	◎	△	△	○	△	△	△

カテゴリ別 出現傾向キーワード	
人間関係・友人関係	友達ができるか、友人関係、人間関係、交流、コミュニケーション、先輩・同級生との関係、恋愛
学修・授業理解	主体性、専門知識、実践的、グループワーク、ゼミ、思考力、ICT教育、教育技術、面接練習、学習環境、理解しやすい
履修・単位・制度理解	時間割作成、単位取得、成績評価、大学の仕組み、システム利用
課外活動	サークル活動、部活動、同好会、学園祭、スポーツ大会、イベント
将来・キャリア・資格	資格取得、就職活動、キャリア形成、進路、インターン、将来設計
生活・環境適応	環境変化への適応、一人暮らし、通学（電車・遅刻）、大学生活全般
両立・自己管理	勉強とアルバイトの両立、時間管理、自己管理、スケジュール管理、自主性
メンタル・不安感	不安感、緊張、ストレス、孤独感、メンタル不安、自信のなさ

※本表は、自由記述回答に含まれる内容をカテゴリ別に分類し、その件数および割合を集計したものである。
割合（％）は、全体の出現件数を100％として算出している。
なお、1つの回答に複数の内容が含まれる場合は、それぞれのカテゴリに重複して計上している。
[楽しみ]および[不安]の分類は、自由記述に含まれるキーワードや文脈から読み取れる内容に基づき整理している。

大学生活で楽しみにしていること・不安

大学生活で楽しみにしている内容としては、「課外活動」(13%)が最も高く、「人間関係・友人関係」(8%)、「学修・授業理解」(7%)が続いており、活動機会や対人関係への期待が中心である。一方、不安に関する内容としては、「人間関係・友人関係」(17%)、「学修・授業理解」(15%)、「履修・制度理解」(14%)が上位を占めており、学修面および対人関係への不安が中心となっている。これらの結果から、同一の内容について、楽しみと不安が「表裏一体」の関係にあることが読み取れる。

Q23.大学生活で楽しみにしていることや不安に感じていることを教えてください。

■大学全体

区分	楽しみ		不安		総数	
人間関係・友人関係	57人	8%	122人	17%	179人	24%
学修・授業理解	49人	7%	109人	15%	158人	21%
履修・制度理解	2人	0%	103人	14%	105人	14%
課外活動	96人	13%	21人	3%	117人	16%
将来・キャリア・資格	21人	3%	9人	1%	30人	4%
生活・環境適応	6人	1%	46人	6%	52人	7%
両立・自己管理	7人	1%	39人	5%	46人	6%
メンタル・不安感	0人	0%	12人	2%	12人	2%
その他	37人	5%	0人	0%	37人	5%
合計	275人	37%	461人	63%	736人	100%

■経営学部

区分	楽しみ		不安		総数	
人間関係・友人関係	15人	6%	46人	17%	61人	23%
学修・授業理解	20人	7%	38人	14%	58人	22%
履修・制度理解	1人	0%	29人	11%	30人	11%
課外活動	43人	16%	6人	2%	49人	18%
将来・キャリア・資格	12人	4%	2人	1%	14人	5%
生活・環境適応	4人	1%	14人	5%	18人	7%
両立・自己管理	4人	1%	14人	5%	18人	7%
メンタル・不安感	0人	0%	4人	1%	4人	1%
その他	17人	6%	0人	0%	17人	6%
合計	116人	43%	153人	57%	269人	100%

■法学部

区分	楽しみ		不安		総数	
人間関係・友人関係	11人	6%	32人	16%	43人	22%
学修・授業理解	10人	5%	38人	19%	48人	25%
履修・制度理解	0人	0%	29人	15%	29人	15%
課外活動	20人	10%	6人	3%	26人	13%
将来・キャリア・資格	6人	3%	2人	1%	8人	4%
生活・環境適応	1人	1%	14人	7%	15人	8%
両立・自己管理	1人	1%	14人	7%	15人	8%
メンタル・不安感	0人	0%	4人	2%	4人	2%
その他	7人	4%	0人	0%	7人	4%
合計	56人	29%	139人	71%	195人	100%

■教育学部

区分	楽しみ		不安		総数	
人間関係・友人関係	31人	11%	44人	16%	75人	28%
学修・授業理解	19人	7%	33人	12%	52人	19%
履修・制度理解	1人	0%	45人	17%	46人	17%
課外活動	33人	12%	9人	3%	42人	15%
将来・キャリア・資格	3人	1%	5人	2%	8人	3%
生活・環境適応	1人	0%	18人	7%	19人	7%
両立・自己管理	2人	1%	11人	4%	13人	5%
メンタル・不安感	0人	0%	4人	1%	4人	1%
その他	13人	5%	0人	0%	13人	5%
合計	103人	38%	169人	62%	272人	100%

■児童教育専攻

区分	楽しみ		不安		総数	
人間関係・友人関係	14人	11%	27人	20%	41人	31%
学修・授業理解	6人	5%	14人	11%	20人	15%
履修・制度理解	1人	1%	23人	17%	24人	18%
課外活動	19人	14%	7人	5%	26人	20%
将来・キャリア・資格	1人	1%	2人	2%	3人	2%
生活・環境適応	1人	1%	6人	5%	7人	5%
両立・自己管理	1人	1%	3人	2%	4人	3%
メンタル・不安感	0人	0%	2人	2%	2人	2%
その他	6人	5%	0人	0%	6人	5%
合計	49人	37%	84人	63%	133人	100%

■スポーツ健康専攻

区分	楽しみ		不安		総数	
人間関係・友人関係	10人	16%	8人	13%	18人	29%
学修・授業理解	6人	10%	6人	10%	12人	19%
履修・制度理解	0人	0%	6人	10%	6人	10%
課外活動	9人	15%	1人	2%	10人	16%
将来・キャリア・資格	0人	0%	2人	3%	2人	3%
生活・環境適応	0人	0%	5人	8%	5人	8%
両立・自己管理	1人	2%	2人	3%	3人	5%
メンタル・不安感	0人	0%	0人	0%	0人	0%
その他	6人	10%	0人	0%	6人	10%
合計	32人	52%	30人	48%	62人	100%

■英語教育専攻

区分	楽しみ		不安		総数	
人間関係・友人関係	3人	10%	3人	10%	6人	19%
学修・授業理解	4人	13%	4人	13%	8人	26%
履修・制度理解	0人	0%	7人	23%	7人	23%
課外活動	4人	13%	0人	0%	4人	13%
将来・キャリア・資格	1人	3%	0人	0%	1人	3%
生活・環境適応	0人	0%	2人	6%	2人	6%
両立・自己管理	0人	0%	2人	6%	2人	6%
メンタル・不安感	0人	0%	1人	3%	1人	3%
その他	0人	0%	0人	0%	0人	0%
合計	12人	39%	19人	61%	31人	100%

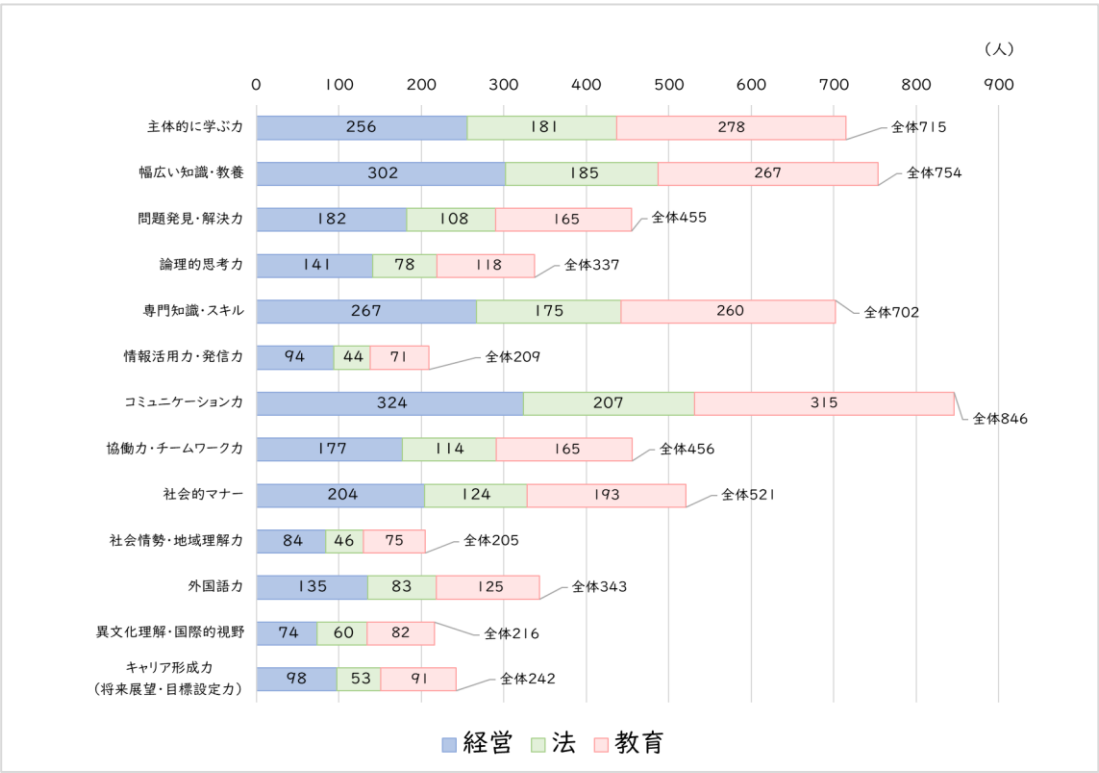
■心理学専攻

区分	楽しみ		不安		総数	
人間関係・友人関係	4人	9%	6人	13%	10人	22%
学修・授業理解	3人	7%	9人	20%	12人	26%
履修・制度理解	0人	0%	9人	20%	9人	20%
課外活動	1人	2%	1人	2%	2人	4%
将来・キャリア・資格	1人	2%	1人	2%	2人	4%
生活・環境適応	0人	0%	5人	11%	5人	11%
両立・自己管理	0人	0%	4人	9%	4人	9%
メンタル・不安感	0人	0%	1人	2%	1人	2%
その他	1人	2%	0人	0%	1人	2%
合計	10人	22%	36人	78%	46人	100%

大学生活で特に伸ばしたい・身につけたい力

大学生活で特に伸ばしたい力としては、「コミュニケーション力」が最も多く、次いで「幅広い知識・教養」「主体的に学ぶ力」「専門知識・スキル」が上位に位置している。一方で、「情報活用力・発信力」や「社会情勢・地域理解力」、「異文化理解・国際的視野」などは相対的に少なく、学生が優先的に伸ばしたい力には一定の偏りが見られる。これらの傾向は、学部・専攻を問わず一貫しており、学生が求める能力は全学で共通しているといえる。

Q22.大学生活で特に取り組みたい活動や、挑戦してみたいことを教えてください。（例：研究、資格取得、留学、ボランティア、部活動など）



学部	主体的に学ぶ力	幅広い知識・教養	問題発見・解決力	論理的思考力	専門知識・スキル	情報活用力・発信力	コミュニケーション力	協働力・チームワーク力	社会的マナー	社会情勢・地域理解力	外国語力	異文化理解・国際的視野	キャリア形成力 (将来展望・目標設定力)
経営学部	256	302	182	141	267	94	324	177	204	84	135	74	98
法学部	181	185	108	78	175	44	207	114	124	46	83	60	53
教育学部	278	267	165	118	260	71	315	165	193	75	125	82	91
(児童教育)	128	135	75	58	129	35	156	75	92	38	58	45	43
(スポーツ健康)	77	68	34	25	66	15	74	42	50	16	31	20	22
(英語教育)	35	35	27	26	32	17	39	26	27	18	19	19	20
(心理学)	42	37	31	19	38	9	50	28	31	10	22	10	17

大学生活で特に取り組みたい活動・挑戦してみたいこと

大学生活で特に取り組みたい活動としては、「資格・免許等」が47%と最も高く、次いで「課外活動」が24%、「ボランティア」が13%となっており、資格取得や実践的な活動への関心が高い。一方で、「授業・学修」は3%、「就職活動」や「アルバイト」も各3%にとどまっており、正課の学修や就職準備よりも、資格取得や課外での経験を重視する傾向が見られる。また、「国際交流・留学」は6%と一定の関心が見られるものの低い水準にとどまっている。このことから、学生は大学生活において、具体的、かつ実践的な経験を通じた成長を重視する傾向にあるといえる。

Q22.大学生活で特に取り組みたい活動や、挑戦してみたいことを教えてください。(例:研究、資格取得、留学、ボランティア、部活動など)

学部別カテゴリ評価クロス表

※基準 ◎◎:30%以上/◎:20~29%/○:10~19%/△:10%未満

	授業・学修	資格・免許等	課外活動	国際交流・留学	就職活動	アルバイト	ボランティア	その他
経営学部	△	◎◎	◎	△	△	△	△	△
法学部	△	◎◎	○	△	△	△	○	△
教育学部	△	◎◎	◎◎	△	△	△	○	△
児童教育専攻	△	◎◎	◎	△	△	△	◎	△
スポーツ健康専攻	△	◎◎	◎◎	△	△	△	○	△
英語教育専攻	△	◎◎	○	◎	△	△	○	△
心理学専攻	△	◎◎	◎◎	△	△	△	○	△

カテゴリ別 出現傾向キーワード

授業・学修	英語, 専門知識, ゼミ, 研究, プログラミング, PCスキル, 語学, 教養
資格・免許等	資格取得, 簿記, TOEIC, 英検, 公務員試験, 教員免許, MOS, IT資格, 会計士, 税理士, 行政書士
課外活動	サークル, 部活動, 同好会, スポーツ, 学生団体
国際交流・留学	留学, 海外研修, 国際交流, 語学力向上
就職活動	インターン, キャリア形成, 就職準備, 将来設計
アルバイト	アルバイト, 実務経験, 社会経験, 接客, コミュニケーション
ボランティア	ボランティア, 地域貢献, 社会貢献, 地域活動
その他	自己成長, 人間力, 挑戦, 視野, コミュニケーション力

※本表は、自由記述回答に含まれる内容をカテゴリ別に分類し、その件数および割合を集計したものである。
割合(%)は、全体の出現件数を100%として算出している。
なお、1つの回答に複数の内容が含まれる場合は、それぞれのカテゴリに重複して計上している。

■大学全体

区分	件数	%
授業・学修	32	3%
資格・免許等	447	47%
課外活動	234	24%
国際交流・留学	55	6%
就職活動	27	3%
アルバイト	27	3%
ボランティア	126	13%
その他	12	1%
合計	960	100%

■経営学部

区分	件数	%
授業・学修	11	3%
資格・免許等	176	55%
課外活動	72	23%
国際交流・留学	20	6%
就職活動	6	2%
アルバイト	7	2%
ボランティア	26	8%
その他	1	0%
合計	319	100%

■法学部

区分	件数	%
授業・学修	11	4%
資格・免許等	149	53%
課外活動	50	18%
国際交流・留学	9	3%
就職活動	17	6%
アルバイト	7	3%
ボランティア	34	12%
その他	2	1%
合計	279	100%

■教育学部

区分	件数	%
授業・学修	10	3%
資格・免許等	122	34%
課外活動	112	31%
国際交流・留学	26	7%
就職活動	4	1%
アルバイト	13	4%
ボランティア	66	18%
その他	9	2%
合計	362	100%

■児童教育専攻

区分	件数	%
授業・学修	6	3%
資格・免許等	59	33%
課外活動	50	28%
国際交流・留学	9	5%
就職活動	1	1%
アルバイト	8	4%
ボランティア	41	23%
その他	5	3%
合計	179	100%

■スポーツ健康専攻

区分	件数	%
授業・学修	3	4%
資格・免許等	32	39%
課外活動	35	42%
国際交流・留学	1	1%
就職活動	0	0%
アルバイト	1	1%
ボランティア	8	10%
その他	3	4%
合計	83	100%

■英語教育専攻

区分	件数	%
授業・学修	1	2%
資格・免許等	15	31%
課外活動	8	17%
国際交流・留学	13	27%
就職活動	2	4%
アルバイト	1	2%
ボランティア	7	15%
その他	1	2%
合計	48	100%

■心理学専攻

区分	件数	%
授業・学修	0	0%
資格・免許等	16	31%
課外活動	19	37%
国際交流・留学	3	6%
就職活動	1	2%
アルバイト	3	6%
ボランティア	10	19%
その他	0	0%
合計	52	100%

全学部共通の特徴として、入学時点における大学生活や教育・学修環境、支援体制への期待値が極めて高く、主要な設問で約9割の肯定的回答を示している。

授業を通じた主体的学修や正課外での自己研鑽に対する意欲は非常に良好である。能力面では、情報の収集・整理能力や多様な価値観への理解といった基礎的資質において、概ね6～8割が肯定的な自己認識を持っている。

一方、これから学ぶ専門知識や技能については、肯定的回答が4割弱にとどまり、未形成の段階にある点が共通している。また、社会課題への関心に比べてボランティア等の実践経験は3割程度と低く、「意識レベル」と「行動レベル」の乖離が見られる。

さらに、入学直後特有の人間関係や新たな環境への適応、履修制度、授業理解に対する不安が、学部を問わず並行して存在していることが確認できる。

これらの状況を踏まえ、入学段階における高い期待を着実な学びや成長へにつなげていくための支援が重要である。